

FUKUI DAIZU 情報

福大豆

No.7

8月1日の梅雨明け以降、まとまった降雨もなく高温が続いています。積極的な畝間かん水を行い高温・乾燥時期を乗り越えましょう。また、8月中旬頃から殺虫殺菌防除を行い病虫害被害を防ぎましょう。

これから稲刈りも始まり、大豆圃場の管理が難しくなりますが、適切な畝間かん水と防除を実施しましょう。

1. 畝間かん水(乾燥害対策)について

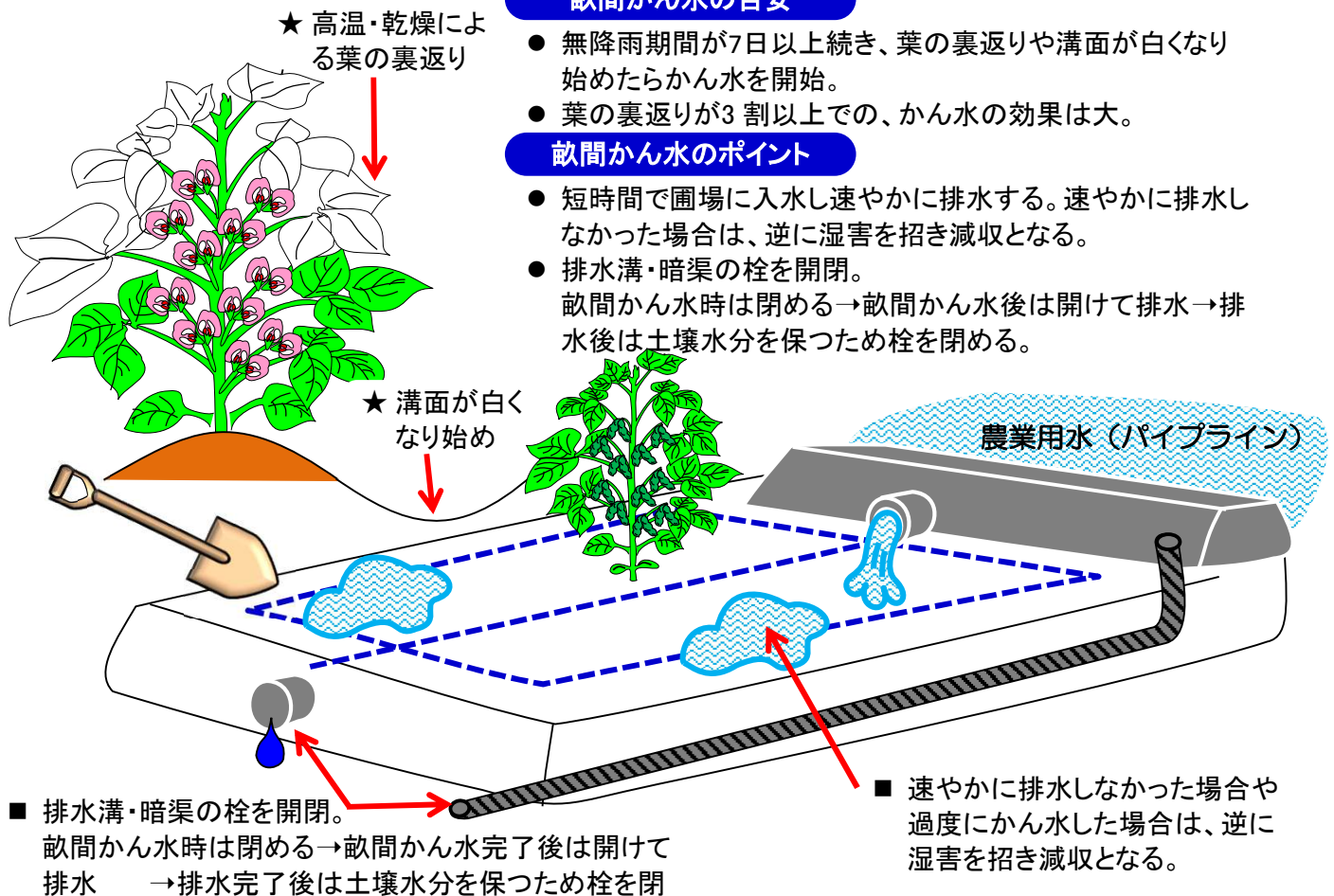
開花後(7月下旬～9月上旬)は着莢・莢伸長・子実肥大のために最も水分が必要な時期です。土壌水分を維持するために暗渠栓を閉じ、状況に応じた畝間かん水を実施、落花・落莢の軽減を図りましょう。

畝間かん水の目安

- 無降雨期間が7日以上続き、葉の裏返りや溝面が白くなり始めたらかん水を開始。
- 葉の裏返りが3割以上での、かん水の効果は大。

畝間かん水のポイント

- 短時間で圃場に入水し速やかに排水する。速やかに排水しなかった場合は、逆に湿害を招き減収となる。
- 排水溝・暗渠の栓を開閉。
畝間かん水時は閉める→畝間かん水後は開けて排水→排水後は土壌水分を保つため栓を閉める。



- 排水溝・暗渠の栓を開閉。
畝間かん水時は閉める→畝間かん水完了後は開けて排水 →排水完了後は土壌水分を保つため栓を閉

- 速やかに排水しなかった場合や過度にかん水した場合は、逆に湿害を招き減収となる。

2. 病虫害防除について

莢伸長期(8月中旬)から子実肥大期以降(8月下旬)にかけては、紫斑病の予防と害虫防除を行うため殺菌殺虫剤(混合剤)を散布する。また、防除薬剤が莢に充分付着するように丁寧に散布しましょう。

8月中旬 : 殺菌殺虫剤の散布(紫斑病+カメムシ類・アブラムシ類)

粉剤

トライトレボン粉剤DL
(収穫14日前、2回まで)

へり

アミスタートレボンSE
(収穫21日前、2回まで)

液剤

カスケード乳

(収穫7日前、2回まで)

アミスター20フロアブル

(収穫7日前、2回まで)

アミスタートレボンSE

(収穫14日前、2回まで)